

**1074**

Radioiodinated MIBG 肺摂取に影響を及ぼ

す要因の臨床的検討

清水健策, 久米典彦, 西垣内一哉, 菅 一能, 塚本勝彦,  
高野勝之, 松永尚文 (山口大放)

Radioiodinated MIBG は肺血管内皮細胞の非呼吸性機能を反映して肺集積を示す可能性があり、基礎的検討で内皮細胞の障害により肺集積が低下する可能性や血中 Catecholamine 濃度により肺摂取が影響を受けることが指摘されている。今回、臨床的に MIBG 肺摂取に影響を及ぼす因子の検討を行った。

その結果、Catecholamine 産生腫瘍や化学療法および放射線照射により MIBG の肺摂取が変化する可能性が示され、臨床的にも MIBG は肺の非呼吸性機能を反映し得る可能性が示された。今回、これらの症例を提示し、文献的考察を加える。

**1075** $^{125}\text{I}$ -IMP によるマウス肺のレーザー顕微鏡を

用いたマイクロオートラジオグラフィー

辰 吉光, 田淵耕次郎, 中田和伸, 松井律夫, 末吉公三,  
橋林 勇 (大阪医大放)

正常マウス肺における  $^{125}\text{I}$ -IMP の経時的分布をレーザー走査顕微鏡を用いたマイクロオートラジオグラフィーにて観察した。静注1分後では小血管周囲に多く分布したが気管支周囲にも認め始めていた。肺胞内にはそれほど多くはなかった。20分後では肺胞内、気管支腔内に多く分布していた。3時間後では気管支腔内ものは減少し始めていた。24時間後では肺胞壁及び間質に軽度の残存が認められたが、気管支腔内にはほとんど認められなかった。

レーザー走査顕微鏡を用いることにより銀粒子と染色された試料に良好なコントラストが得られ、双方に焦点のあった写真が撮像でき、マイクロオートラジオグラフィーが明瞭に観察できた。